

第4回プログラミング教育事業推進会議 議事録

日時：平成29年9月7日（木）15:00～15:45

会場：日本教育会館 8F 第二会議室

出席者：

委員：赤堀主査、今井委員、上松委員、田所委員、坪内委員、寺本委員、中川委員、丹羽委員、

長谷川委員、早川委員、原田委員、平井委員、福本委員、松田委員、讃井氏（水野委員代理）

オブザーバー：内閣官房 竹之内企画官、厚生労働省 高沢課長補佐、経済産業省 千家係長、文部科学省
相川係長・麻田係長

総務省：田村室長・本橋課長補佐、電通 海野氏、

事務局：アライド・ブレインズ 大野氏

配布資料：

座席表

議事次第

資料1 委員名簿

資料2 平成28年度第2次補正予算「若年層に対するプログラミング教育の普及推進」事業実施状況

資料3 「若年層に対するプログラミング教育の普及推進」事業

資料4 今後のスケジュール

資料5 学校関係者からの相談対応

資料6 総務省における教育 ICT 関連予算の概要

参考資料 次世代の教育情報化推進事業

議事概要：

1. 開会挨拶

総務省情報流通行政局 情報流通振興課 情報活用支援室 田村室長より挨拶

2. 参加者の紹介・ご挨拶

事務局より参加者（委員およびオブザーバー）の紹介

赤堀主査よりご挨拶

- ・昨年に引き続きこのプロジェクトに参加できることについては、大変嬉しく思う。
- ・特に今回は特別支援教育という非常に意義の高い、かつ日本の障害児をもつ親にとっても大変期待できるプロジェクトではないかと思う。
- ・今年一年、いろいろな研究や実践をしていただいて、全国の親や先生方に向かって、こんな実践があったと高々と打ち出していきたい。そのことが日本の教育のために役立つのではないかと考えており、そういうプロジェクトに参加できることを幸せに思う。

新委員 5 名よりご挨拶（今井委員、田所委員、丹羽委員、早川委員、福本委員）

今井委員：

- ・当団体は情報通信産業の会社の集まりで、プログラミング教育そのものの専門家ではないが、プログラミング教育に密接に関連する情報通信に携わっているということで、微力ながら貢献できればと思っている。

田所委員：

- ・私どもの会社は「障害のない社会をつくる」というビジョンをもとに、障害のある方を中心に幼児期の教育から、就労支援までのワンストップサービスを展開しており、今回は、「IT×ものづくり教室」を展開している LITALICO ワンダー事業を担当している者として参加させていただいている。
- ・「IT×ものづくり教室」に実際に通っているお子さんの中には、様々な困難を抱えているお子さんもたくさんおり、ちょうど昨日は都内の特別支援学校へ赴いて「IT×ものづくり」の授業を行うなど、さまざまなアプローチを展開している。

丹羽委員：

- ・大学では教員を目指す学生の指導を行っており、専門は福祉義務教育ということで、障害者の ICT 活用を行っている。
- ・特に障害を持つ子供たちには、ICT をツールとして使って社会に出ていくことを目指していくことになるので、既に幾つかの学校ではプログラミング教育としてスクラッチを使って進めるなどしているところ。今回の事業では具体的なプログラミング教育と一緒に学ばせていただきたい。

早川委員：

- ・特別支援学校からということで参加させていただく。
- ・学習指導要領の改訂が行われ、「主体的・対話的で深い学び」が重視されている。プログラミング教育はその真ん中にくるものと考えている。学校でもタブレットでのいろいろな学習方法が広がっていき、地域や社会へ広がる、つながる学習が展開していくと期待している。

福本委員

- ・今の専門は、学習指導要領の改訂に関することや、国立特別支援教育総合研究所で病弱教育やアクティブラーニングをどう行っていくなどを研究している。

3. 議事

- (1) 28 年度補正事業及びキャラバンの実施状況について
株式会社電通（H28 補正事業事務局）より、資料 2 にて説明
- (2) 議事事業概要および応募状況について
事務局より、資料 3 にて説明

(3) 今後のスケジュール

事務局より、資料4にて説明

(4) 学校関係者からの相談対応について

事務局より、資料5にて説明

(5) 30年度予算概算要求状況について

総務省より、資料6にて説明

文部科学省より、参考資料にて説明

4. 質疑

寺本委員：

学校関係者からの相談対応の対象はモデルの導入を検討している学校とのことだったが、「うちの学校も導入してみようかな・・・」と思っている程度など、こういった検討状況の学校が相談可能なのか。

事務局：

具体的な計画がなくても、「やってみたいのだけど」と言った相談も想定している。

総務省：

今、国と民間で協力して「未来の学びコンソーシアム」が立ち上がり、プログラミング教育の普及推進を開始した。そのためのポータルサイト構築を計画しており、教材開発・提供、人材活用などのメニューの中の一つとして相談対応を検討している。本事業では、寄せられる質問のうち、専門的な質問について、委員の皆様にも回答に協力いただきたいと考えている。

中川委員：

実際の授業を拝見したことがあり、授業後の先生方の総括のディスカッションはものすごく盛り上がるが、小学校・中学校・高等学校それぞれにおけるプログラミング教育の本来の目的が理解されているのか疑問に感じることもある。特に中学の位置づけが難しく、こういった位置づけで学び何を得るのかを先生が腹落ちしていることが重要なのだが、悩んでいる先生も多いため、そういった相談が多くなる可能性があり、効果的な対応を期待している。

6. 閉会

以上